

回覧用							

発行日	令和5年12月28日
発行元	災害対策課
所属長	森本 仁信
電話	06-6489-6165

防災対策情報便



令和5年12月号

1 津波等一時避難場所が追加されました！

尼崎市では、津波や洪水による浸水から一時的に身を守る施設として、「津波等一時避難場所」を指定しています。

この度、株式会社 DAISHIN ホールディングス（大西町 3-2-29）を令和6年1月1日付で「津波等一時避難場所」に指定しました。



津波等一時避難場所とは

つぎの条件をすべて満たす建物を指定しています。

- 昭和56年に施行された新耐震基準を満たしている建物
- 鉄筋コンクリート造り等の建物
- 3階建て以上の建物
- 24時間の受け入れが可能



2 地域の訓練に密着しました！！

田能・園和自主防災会



応急給水栓
設置訓練



煙体験訓練



マンホールトイレ
設置訓練

3 阪神・淡路大震災～1.17は忘れない～

平成7年（1995年）1月17日（火）午前5時46分、淡路島北部を震源地とする地震が発生。東北地方から九州地方まで広い範囲で揺れを観測し、国内で史上初めてとなる「震度7」を観測し、死者・行方不明者は6400人を超え、全半壊など被害を受けた住宅は約63万棟にのぼりました。

尼崎市の当時の被害としては、**死者49名、住宅被害は41,690棟**という大きな被害を受けました。

また、この年の2月、政府はこの地震を「阪神・淡路大震災」という呼称に決めました。

阪神・淡路大震災から令和6年（2024年）で29年目を迎え、人々の記憶が薄れていく中で当時の被害やその原因を**後世に伝えていくことが大切になります。**

被害の特徴①家屋倒壊、インフラ被害

▼家屋倒壊

当時は1981年よりも前の「古い耐震基準」で建てられた木造住宅が多く残っていて、地震の激しい揺れによって多くが倒壊しました。亡くなった人の約9割が地震当日の午前6時と地震後まもなく死亡していた可能性が高いことが分かっています。

▼インフラ被害

鉄筋コンクリートで造られたビルも壊れたり倒壊したり、都市の交通網を支える道路や橋、港湾設備など「インフラ」も大きな被害を受けました。

特に阪神高速道路の橋脚が600メートル以上にわたって横倒しになった光景は、インフラを建設する関係者にも衝撃を与えました。



出典：消防防災博物館



出典：消防防災博物館

被害の特徴②同時多発的出火

▼通電火災

震災では電気が復旧したときに倒れた電気ストーブや破損した電気コードなどから発火する「**通電火災**」のリスクが浮かび上がりました。地震から時間をおいて発生した火災の主な原因とも見られています。



出典：神戸市

被害の特徴③病院や避難所の限界

▼病院におけるトリアージ

地震発生直後から、病院には、けが人が次々に搬送されてきたほか、多くの人々がみずから歩いて訪れました。

神戸市を中心に病院には多くの人々が殺到。病院自体だけでなく医師や看護師なども被災する過酷な状況の中で「**誰を優先して治療すべきか**」混乱も起きました。

▼避難所生活

住まいを失った多くの人たちは、学校や体育館など避難所で生活を送ることになりました。

女性や男性、子ども、高齢者も関係なく「**密集した避難所**」ではプライバシーの確保が難しく、避難者にとって大きなストレスに。暖房などに限界もあり、多くの人々が寒さの中で過ごしました。水が流せなくなったトイレの「**衛生状況の悪化**」や「**トイレ不足**」も大きな問題となり健康被害が懸念されました。



出典：神戸市

内陸型地震と海溝型地震の違い

▼内陸型地震（直下型）の特徴

海のプレートの動きは、海溝型地震の原因となるだけでなく、陸のプレートを圧迫し、**内陸部の岩盤にも歪みを生じさせます**。ひずみが大きくなると、内陸部の地中にあるプレート内部の弱い部分で破壊が起こります。

こうして起こる地震は、海溝型の巨大地震に比べると局地的な激震を起こします。都市直下の浅い所を震源とする場合には大きな被害をもたらします。

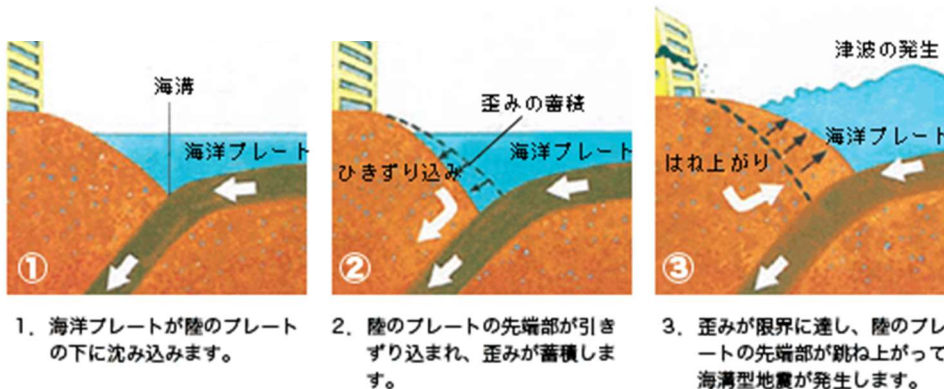
内陸型地震の例として、阪神淡路大震災をはじめ、熊本地震や新潟県中越地震があります。

▼海溝型地震の特徴

海のプレートが海溝で沈み込むときに陸地のプレートの端が巻き込まれます。やがて、**巻き込まれた陸のプレートの端は反発して跳ね上がり**、巨大な地震を引き起こします。この跳ね上がりによって起こる地震を海溝型地震と呼んでいます。

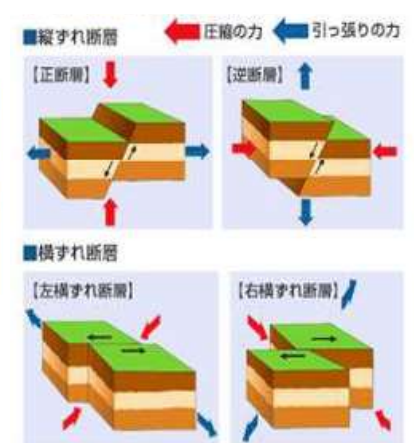
海溝型地震の例として、東日本大震災や今後発生するとされている南海トラフがあります。また、この地震では津波が発生する危険性があります。

海溝型地震のメカニズム

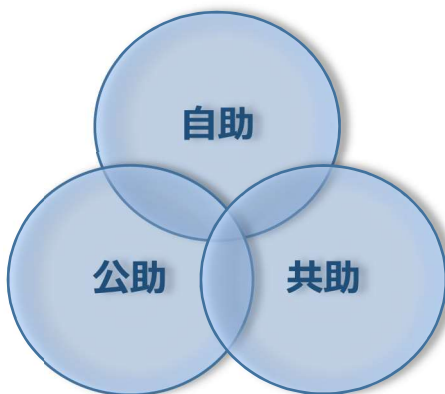


出典：大阪市

内陸型地震のメカニズム



(イメージ図)



○大切な3つの“助”

1. 自助とは、災害発生した際に自分自身を守ることをいいます。その中には、災害が起こる前からできることもあり、たとえば**家庭内備蓄やハザードマップを確認しておくことが重要**となります。
2. 共助とは、地域コミュニティなどの**近くの人々が助け合う**ことをいいます。阪神淡路大震災の時には、瓦礫から救助された多くの方は地域住民によって救助されたという記録も残っています。
3. 公助とは、市町村や消防、警察、自衛隊などの**公的機関による救助・援助**を指します。また、防波堤の設置などのハード整備も公助のうちのひとつとされます。